

京師帝國大學法學科大學

經濟論叢

第三卷 第四號

故法學博士井上密君肖像并哀辭

論說

對露輸出代金決済方法

國防稅ノ當否(三、完)

代表紙幣ト獨立紙幣(二)

課稅ト獨占價格(二)

戰後ノ人口増加政策(二)

保險本質論(二、完)

雜錄

重テ在外正貨問題ヲ河津博士ニ答フ

テ重テ
公營造物ニ關スル美濃部織田松本三博士ノ所論
ヲ讀ミテ東京市電車舊乘車券問題ニ及ブ(二)

支那ニ於ケル人口過剩論ノ梗概

移民政策上ヨリ邦人同化問題

村落共產體ノ發達

らぐれー『ミール』學說ノ研究(三、完)

過去ニ於ケル和蘭ノ植民の活動

神惟孝ノ事ニ鈴木券太郎氏ニ答フ

漬物机上觀

法學博士 戸田 海市

法學博士 神戶 正雄

法學士 作田 莊一

文學士 高田 保馬

米田庄太郎

法學士 小島昌太郎

法學博士 神戶 正雄

法學博士 福田 德三

鈴木券太郎

山本美越乃

法學士 本庄榮治郎

商學士 大塚金之助

山本美越乃

瀧本 誠一

法學士 財部 靜治

(載 轉 禁)

大正五年十月一日發行

移民政策上ヨリ觀タル 邦人ノ同化問題

山本美越乃

今ヨリ九年前米國ニ於テ初メテ亞細亞人排斥同盟 (Asiatic Exclusion League of North America) ノ組織セラルルヤ、高加索人種ト亞細亞人種トハ到底同化スルヲ得ズ、故ニ米國內殊ニ西海岸ニ於ケル高加索人種ヲ保護セント欲セバ、亞細亞人種ノ米國移住ヲ防止スルカ、然ラズンバ之ヲ減少セシメンガ爲メニ最善ノ方法ヲ講ゼザル可カラザル事ヲ其ノ綱領中ニ掲ゲ、又數年前レビユーを著レヒウチ誌上ニモ加州外人土地法ニ論及シテ、"The Japanese are intensely distinct and self-conscious as a race and nation. Those who come here, come as Japanese. They have no thought of becoming Americans.....The two civilizations will not readily assimilate when brought into close contact."*ト評セリ、コハ單ニ米人間ニ於ケル一部ノ意見ヲ代表セルニ過ギズト看做スヲ得ズシテ、寧ロ米國內ニ於ケル輿論ト稱スルモ不可ナク、從來好意ヲ以テ

邦人ヲ遇セル人々ノ間ニ在リテモ、此ノ一事ハ殆ンド定論トシテ認メラレツツアルモノノ如シ。

然ルニ之ニ對シテ最近かんさず大學經濟學教授みりす氏ハ諸種ノ方面ヨリ此ノ問題ヲ研究シ全ク反對ノ結論ヲ抽出シテ曰ク、**

(一) 日本人ハ急速ニ同化シ得ベキ多クノ個人的資質ヲ有ス、

(二) 現ニ今日ニ至ル迄日本人ハ同化ノ實ヲ擧ゲタルコト尠ナカラズ、

(三) 日本人ガ全然同化シ得ルヤ否ヤハ要スルニ特別ノ問題タリ、

(四) 同化ハ移民數・境遇及ビ個人的特性ノ如何ニ依リテ差異アリ、

(五) 假令移民ノ數ヲ制限スルモ境遇ノ如何ニ依リテハ同化ハ意ノ如クナルヲ得ズ、

(六) 移民數多キ時ハ同化ヲ實現セシムルコト困難ナリ、

(七) 人種ノ混同ハ敢テ恐ルルニ足ラズ、而シテ氏ハ更ニ進ンデ日米兩國人ノ差異ハ

* Review of Reviews, June, 1913.

** Millis, H. A.: The Japanese Problem in the United States, pp. 252-253.

畢竟多年周圍ノ境遇ヲ異ニセルヨリ、斯カル結果ヲ生ズルニ至レルモノナルモ、由來日本人ハ他ノ東洋人種ト異ナリ、常ニ他國民ノ長所ヲ採用センコトニ努メツツアル事實ハ、政治・産業・教育・宗教等有ラユル方面ニ、斷エズ改良進歩ノ跡ヲ認メ得ベキヲ以テモ之ヲ證スルニ難カラズ現ニ在米日本人ノ状態ニ就キテ觀察スルモ、住宅ノミハ未ダ及バザルコト遙カナリト雖ドモ、衣・食ノ點ニ關シテハ殆ンド米人ト異ナルコトナク、又好ンデ英語ヲ使用シ且之ヲ通シテ更ニ深ク知識ノ修得ニ隄メツツアルヲ以テ見ルモ、從來論者ノ非難スルガ如キ、同化力ヲ有セザル國民ニ非ラザルコトヲ知ルヲ得ベシト論ゼリ。^{*}同化力ヲ有セザル移民ノ増加ハ、國民ヲシテ統一的ノ團結力ヲ缺ケル烏合ノ衆タラシムルニ過ギザルヲ以テ、移住國ニ於ケル移民ノ同化力ノ如何ハ、移民政策上ニ於テハ極メテ重大ナル根本問題タリ、若シ我が國ノ移民ニシテ多數米人ノ認ムルガ如クニ、果シテ同化ノ能力ヲ有セズトセバ邦人排斥問題ノ如キモ其ノ責任ノ大部

分ハ、我レニ於テ自ラ之ヲ負擔セザル可カラザルト共ニ、將來他國ニ移民ヲ送ラントスルニ當リテモ、特ニ此ノ點ニ慎重ナル注意ヲ加フルノ必要アリト雖ドモ、みりす氏ノ言ヘルガ如ク我が移民ノ同化力ハ、必ラズシモ歐洲移民ニ劣ルモノニ非ズトセバ、邦人排斥問題ノ責任ハ寧ロ彼レニ在リテ我レニ存セズト謂フモ不可ナシ、何トナレバ同化力ヲ有セザル移民トシテ移住國ノ排斥ヲ受クルハ、移民政策上正當ノ理由ヲ有シ、之ニ對シテハ抗議ヲ容ルルノ餘地ナシト雖ドモ、同化力ニ著シキ差異ノ認ム可キモノナキニ拘ハラズ、獨リ邦人ノミヲ排斥シテ歐洲人ニ及バザルハ、純然タル『人種的ノ偏見』ニ基ケルカ、然ラズンバ邦人ノ移住ニ伴フ彼等ノ『經濟的生活ノ不安』ヲ恐ルルニ因ルルベキモ、然カモ是等ハ孰レモ理論上ヨリセバ正當ナル根據ヲ有スルモノニ非ザルヲ以テナリ、蓋シ人種的ノ偏見ナルモノハ全然感情上ノ問題ニシテ理性上ノ問題ニ非ズ、又經濟的生活ノ不安ニ對スル恐怖ハ、一見正當ノ理由アルガ如キモ實ハ然ラズ、

* Do. pp. 253-266.

何トナレバ我が移民ト雖ドモ收入ノ小ナランヨリハ大ナランコトヲ欲シ、非労働組合員トシテ労働市場ニ競立センヨリハ、労働組合員トシテ有利ナル賃金及ビ勞時ノ保障ヲ得ンコトヲ冀ハザル者ナカルベシ、隨テ從來我が移民ノ屢々労働組合ニ加入センコトヲ提言セルニ拘ハラズ、常ニ組合ノ容ルル所トナラズシテ、彼等自ラ好シテ労働市場ニ於ケル競争者ヲ自己ノ圈外ニ置キ、其ノ自由行動ニ委テツツアリキ、(邦人労働者ノ或種ノ労働組合ニ加入スルコトヲ得タルハ極メテ最近ノ事ニ屬シ然カモ其ノ實例ハ未ダ多カラズ)、故ニ邦人ノ移住ハ彼等ノ經濟的生活ヲ不安ナラシムルノ虞レアリトノ説ハ、少クトモ土地ノ面積ニ比シテ人口過剩ナルカ、(米國ノ場合ニ於テハ此ノ理由ハ適用ヲ見ズ)、然ラズンバ我が移民ノ労働組合員トシテ、彼等ト共同ニ労働ニ従事スルコトヲ肯ゼザル意志ヲ表白セル場合 他ハ、正當ナル理由アルモノトシテ之ヲ是認スルコト能ハザルヲ以テナリ。依是觀之、みりす氏ノ説ニシテ若シ眞ナリトセバ、邦人排斥問題ノ如キハ全ク理論上正當ノ

根據ヲ有セザルモノト言フヲ得ベク、隨テ之ガ爲メニ國際修好上ニ障礙ヲ及ボスガ如キコトアリトセバ、其ノ全責任ハ米人自ラ之ヲ負擔ス可キモノタリ、從來東洋ノ移民ニ對スル非難ハ、歐洲ノ移民ト異ナリテ同化力ヲ缺ケリトノ點ニ於テ、有力ナル理論上ノ根據ヲ有シタリト雖ドモ、—“Although these races(orientals) may not be considered in any way inferior to ourselves, it is a fact that they are materially different: that they are not so easily assimilated as are the members of the European races: that they do not readily marry with our people nor our people with them. And we should reflect that, short of intermarriage, there is no real amalgamation of races.”* 若シみりす氏ノ言ノ如ク、我が移民ノ同化力ニ關シテハ多ク憂フ可キモノナシトセバ、少ナクトモ在米邦人ノ排斥ハ正當ナル理由ニ基ケルモノト稱スルヲ得ザルベシ。吾人ハ我が移民ノ發展上みりす氏ノ説ノ事實上ニ立證セラレ、且多數ノ米人ニ依リテ確認セラレンコトヲ冀フテ止マザル者ナリト雖ドモ、亦他方ニ於テハ紐育大學教授せんくす氏等ノ邦人移住者ニ對スル深刻

* Jenks, J. W. and Lauck, W. J.: The Immigration Problem, p. 216.

** Do. p. 251.

ナル觀察ノ、頗ル有方ナル根據ヲ有スルモノア
ルコトヲ忘ル可カラザルナリ、曰ク、¹⁴ "In spite
of this external assimilation they, nevertheless, beyond
doubt, maintain their race characteristics to a greater deg-
ree than do most of the European races." ** ト。